

食野寮生福島君虐殺糾弾

先日1月20日、教養部構内において、熊野寮生福島君が、革マルの手により後頭部を鉄パイプで殴打され虐殺されるという事件が起きた。我々吉田寮自治会は、この事件を満腔の怒りをもって糾弾し、以下のとおり我々の考えを明らかにする。

1. 福島君虐殺糾弾！

福島君は、熊野寮自治会委員長として我々吉田寮自治会とともに京大寮闘争を担ってきた。こうした熊野寮生福島君に対する虐殺行為は、熊野寮・吉田寮両自治会の寮闘争の前進を阻む行為であり、さらに寮自主管理を破壊するものである。我々は今回の熊野寮生福島君虐殺を断固糾弾する。また、いかなる寮自主管理への破壊行為も許さない。

2. 警察権力による強制捜索弾劾！

今回の事件の際、警察権力ニ川端署は、捜査を名目に教養部に機動隊を導入し、教養部に封鎖状態体制を引いたうえで尚質館などに押し入った。また公安刑事が教養部から出ていく一人一人を呼び止め聞きこみをした。これは明らかに今回の事件を口実にした大学の管理強化を狙う警察権力の介入であり、大学における学生自治を破壊する行為に他ならない。さらに、京都府警は、マスコミを通じて「今回の事件が吉田寮問題に関係した内ゲバ事件」というデマキャンペーンを流布させている。我々はこのような警察権力の横暴を決して許はしない。

3. 大学当局による学内治安管理強化を許さない！

総長西島の事件後の記者会見でもわかるとおり、京大当局は今回の事件をテコとしてさらなる学内管理強化を狙っている。特に熊野寮・吉田寮に対しては、寮自治への介入を図ってくるだろう。我々は当局の寮「不正當」キャンペーンを粉砕し、寮自主管理を貫徹する中、学内治安管理強化と断固として戦っていく。

以上のことを明らかにした上で、吉田寮自治会は、これからも寮闘争を最先頭に立って闘い、さらなる寮自主管理の深化・発展を克ちとっていく決意をここに明らかにするものである。

1986年2月3日 吉田寮自治会